

◆出品目録 ※展示の順番とは必ずしも一致しません。

No.	資料名(*パネル展示)	制作年/制作・出版者/素材・形態	大きさ(縦×横 cm)	所蔵
第1章 島原・天草一揆の記録と排耶書の出現				
1-1. 記録された島原・天草一揆				
参考	谷忠兵衛書状*	寛永15(1638)年4月15日/谷忠兵衛(差出)/紙本墨書	—	安高啓明研究室(熊本大学)
1	肥前島原記	江戸時代後期/作者不明/紙本墨書・着色、縦帳	23.5×15.5	西南学院大学博物館
1-2. 排耶書の出現				
参考	破吉利支丹*	寛文2(1662)年/鈴木正三(撰)・堤六左衛門(板)/紙本木版、縦帳	—	早稲田大学図書館
参考	破提字子*	元和6(1620)年/ハビアン(著)/紙本木版、小横帳	—	京都大学附属図書館
第2章 実録の流行とキリシタン実録群				
2-1. 排耶書の変化				
参考	吉利支丹物語*	寛永16(1639)年/作者不明/紙本木版、縦帳	—	国立国会図書館
参考	嶋原記*	宝永元(1704)年/勝村治右工門・須原屋茂兵衛(板)/紙本木版、縦帳	—	早稲田大学図書館
2-2. 実録のおこりと流布				
2	天草軍記	江戸時代/作者不明/紙本墨書、縦帳	23.5×17.0	西南学院大学博物館
3	切支丹由来実録	安永4(1775)年/西脇吉蔵(写)/紙本墨書、縦帳	26.2×19.1	西南学院大学博物館
4	切支丹宗門来朝実記	寛政10(1798)年/沙門賢盛(写)/紙本墨書、縦帳	24.0×17.0	西南学院大学博物館
5	切支丹宗門由来記	江戸時代/作者不明/紙本墨書、縦帳	23.1×16.6	西南学院大学博物館
6	切支丹根元記	寛政10(1798)年/南呂中院(写)/紙本墨書、縦帳	22.5×15.5	西南学院大学博物館
第3章 明治以後の排耶書とキリシタンブーム				
3-1. 廃仏毀釈と排耶への動き				
7	破切支丹記巻	天保8(1837)年/坂野利四郎(写)/紙本墨書、縦帳	25.5×16.5	西南学院大学博物館
8	南蛮寺興廢記	昭和51(1976)年/鶴久二郎(刊)/影印復刻版	25.6×17.8	西南学院大学博物館
参考	仏法護国論*	安政3(1856)年/月性(撰)/紙本木版、縦帳	—	京都大学附属図書館
3-2. 展覧会とキリシタンブーム				
9	嘉永以前西洋輸入品 及参考品目録	明治39(1906)年/東京帝室博物館(編)/書冊	22.0×14.8	西南学院大学博物館
10	キリシタン仏像	昭和20(1945)～昭和25(1950)年か/作者不明/鉄製	25.3×19.5	西南学院大学博物館
11	十字文様壺	制作年不明/作者不明/白磁染付	口径9.5×高さ17.8 ×底径8.1	西南学院大学博物館
12	キリシタン壺	制作年不明/作者不明/白磁染付	口径3.4×高さ25.4 ×底径8.0	西南学院大学博物館
13	紙踏絵	明治後期前後か/作者不明/紙本木版・墨書	35.0×25.0	西南学院大学博物館

◆会期中のイベント

せいなんこどもワークショップ「考古学体験! 拓本をとってみよう!」

日時:2022年5月21日(土) 14:00~16:00 場所:西南学院大学博物館 対象:小学校3年生以上(定員あり)

【申し込み方法】メールにて、件名「考古学体験申し込み」、本文「①参加者氏名(ふりがな)、②年齢、③学校名・学年、④保護者氏名 続柄、⑤緊急連絡先番号、⑥メールアドレス」を記入の上、お申込みください。申し込み先:seinanmuseum@yahoo.co.jp 申し込み締切:2022年5月6日(金)

◆アンケートプレゼント

期間中、アンケートに回答していただいた方に「オリジナルしおり」をプレゼント! ※数量限定です。なくなり次第終了となりますのでご了承ください。

新型コロナウイルス感染拡大状況により、日時や内容は変更となる場合がございます。最新情報はホームページをご確認ください。また、ご来館の際はマスクの着用をお願いいたします。

西南学院大学博物館
SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786
MAIL seinanmuseum@yahoo.co.jp



西南学院大学博物館
ホームページ



@seinan_museum



ホームページ・Twitter・Instagram 更新中!
SNSでは各種お知らせ、資料紹介、マスコットキャラクター「ジョージくん」のつぶやきなどを届けています。
「#西南学院大学博物館」をつけて感想などの投稿もお待ちしております!



交通案内

【地下鉄】福岡市地下鉄空港線「西新」下車、3番出口から徒歩5分
【バス】西鉄バス[2][9]系統、「修験館前」下車、徒歩5分
※駐車場はございません。お車でお越しの際は、周辺の有料駐車場をご利用ください。

二〇二二年度企画展 II
創られたキリシタン像

排耶書と実録のなかのキリシタン



島原・天草一揆ってどんな一揆だった?



『肥前島原記』
江戸時代後期/作者不明/紙本墨書・着色、縦帳/西南学院大学博物館蔵

キリシタンは妖術を使って人々を惑わす?
禁教時代の人々が持っていたキリシタンのイメージとは?



『切支丹宗門由来記』
江戸時代/作者不明/紙本墨書、縦帳/西南学院大学博物館蔵



「南蛮国王」は日本を
征服しようとしていた?



禁教期のキリシタンは
こんな壺を使っていた?



十字文様壺
制作年不明/作者不明/
西南学院大学博物館蔵

画像:『吉利支丹退治物語』(京都大学附属図書館蔵)を加工

入場
無料

2022年
3月5日(土) ▶ 5月31日(火)

会場 西南学院大学博物館 1階 特別展示室

主催 = 西南学院大学博物館 開館 = 10:00~18:00(最終入場17:30) 休館日 = 毎週日曜日

西南学院大学



第1章 島原・天草一揆の記録と排耶書の出現

寛永14年(1637)年、肥前国島原半島南部高来郡において、厳しい年貢の取り立てやキリシタンへの取り締まりに反発した人々により、島原・天草一揆が勃発した。

一揆の終盤、一揆勢約3万7千人は原城(長崎県南島原市)に籠城し、幕府軍は総勢12万人でその鎮圧にあたった。約3ヶ月に及ぶ籠城戦の末、一揆勢は幕府軍に敗れた。

一揆終息後、キリシタンへの取り締まりは一層厳しくなり、キリスト教の教えに批判的意見を加えた「排耶書」が次々に刊行された。また、鎮圧にあたった藩士などにより一揆の記録もつくられた。

本章では、一揆に関わった人物らによる記録と、一揆の直後に刊行された排耶書について紹介する。

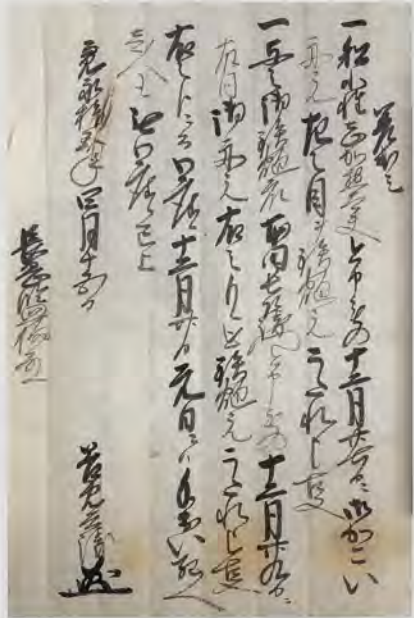


『切支丹由来実録』
安永4(1775)年/西脇吉蔵(写)/紙本墨書、縦帳/西南学院大学博物館蔵



『切支丹宗門来朝実記』
寛政10(1798)年/沙門賢盛(写)/紙本墨書、縦帳/西南学院大学博物館蔵

「実録」は、主に貸本屋を通して人々に読まれました。実録のテーマは、加賀騒動・黒田騒動などのいわゆる「お家騒動」を題材としたものや、関ヶ原の戦いや島原・天草一揆などを題材とした軍記物、血屋敷(お菊)などの怪談など、多岐にわたります。実録のテーマの一つに「キリシタン渡来」に関するものがあり、それらは『吉利支丹物語』のストーリーを引き継ぎつつ、虚構などを交えながら具体的に話を膨らませたものです。たとえば、「南蛮国王」らがキリシタンの術を使って日本を占領しようと話し合う場面や、「ゴウスモウ」・「シユモン」という日本人修道士が豊臣秀吉の前で魔術を使う場面などが追加されています。



島原・天草一揆に参加した谷忠兵衛が、熊本藩の家老長岡監物に宛てた書状で、一揆における家臣の死傷状況を報告しています。一揆の生々しい様子がうかがえます。

「谷忠兵衛書状」*
寛永15(1638)年4月15日/谷忠兵衛(差出)/紙本墨書/安高啓明研究室(熊本大学)蔵



『破提字子』*
元和6(1620)年/ハビアン著/紙本木版、小横帳/京都大学附属図書館蔵

ハビアンは優れた日本人イルマン(修道士)でしたが、次第にキリスト教の教えに疑問を抱くようになり、ついに棄教します。『破提字子』はハビアンによる排耶書で、さまざまな視点からキリスト教の教えや外国人宣教師を批判しています。

* パネルによる参考展示資料(以下同)

第2章 実録の流行とキリシタン実録群

江戸時代中頃になると、人々のキリシタンに対する認識は薄れていったが、写本として広まった「実録」のなかに、キリシタンを題材としたもの(「キリシタン実録群」)が現れたことにより、実際とは異なるキリシタンイメージが成形されていた。またキリシタン実録群は、キリシタン自身が禁教的題材であったことや、当時はほとんど知ることができなかった西洋に関する記述があったことから、人々の興味を引くものでもあった。

本章では、排耶書から「キリシタン実録群」への変化の過程をたどり、その内容を紹介します。禁教期の人々が持っていたキリシタンイメージに迫る。



仮名草子として出版された排耶書です。他の排耶書と比べてストーリー性があり、平易な仮名書きとなっています。寛文5(1664)年には挿絵が追加され、『吉利支丹退治物語』として出版されました。パテレン(宣教師)は、天狗のような姿で描写され、鼻が高い・目が大きい・爪が長いなどの特徴が記されています。

『吉利支丹物語』*
寛永16(1639)年/作者不明/紙本木版、縦帳/国立国会図書館蔵(国立国会図書館デジタルコレクションより)

第3章 明治以後の排耶書とキリシタンブーム

幕末から明治初頭にかけて、神道の国教化がすすみ、仏教界は打撃を受けた。そこで、「破邪顕正(邪教を打ち破り正しい教えをあらわすこと)」を目標に掲げ、復興をめざそうとした仏僧による排耶書が次々と著された。明治39(1906)年には、キリシタンの信仰具や踏絵などの「耶蘇教遺物」が東京帝室博物館の特別展で公開され、キリシタンの存在が注目されるようになる。そして昭和時代にかけて、キリシタンが使用していたとされる「キリシタン遺物」がつくられ、流通していった。

本章では、仏僧による排耶書や、明治時代以後につくられた「キリシタン遺物」を紹介し、幕末から明治時代以降のキリシタンイメージの変化をたどっていく。



『仏法護国論』*
安政3(1856)年/月性(撰)/紙本木版/京都大学附属図書館蔵

浄土真宗本願寺派の僧・月性により著された排耶書です。仏教界の中でも特に、東西本願寺が積極的に説論活動を行っていました。このころに仏僧により著された排耶書の書名にはしばしば「護法」「護国」という言葉が入っています。

キリシタン仏像
昭和20(1945)~昭和25(1950)年か/作者不明/鉄製/西南学院大学博物館蔵

十字架の中心に仏像がついており、「キリシタン遺物」とされていました。しかしながら実際は、昭和20(1945)年前後に愛知県で製作されたもので、つくられた「キリシタン遺物」の一つです。明治時代以後、このようなキリシタン「らしい」ものが沢山つくられ、国内外に流布しています。

